

第3学年3組 社会科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 単元 「地方自治と住民の参加」～まちづくりのアイデアを提言しよう～

2 学習の構想

【このような生徒だから】

本学級は、受容的な温かい雰囲気の中で、提示した社会的事象に対して、興味や関心を素直に示し、積極的に挙手、発言する生徒が多い。また、ペアや小グループでの活動においても自分たちで役割分担を行い、スムーズに話し合いを行うことができる。小テストで行う知識を問う問題に関しても真面目に取り組み、一学期の平均正答率は、82.3%であった。一方で、「どうしてそうなったのか」、「どのようにしていけばよいのか」という原因や課題について、自分の考えをまとめる記述を苦手とする生徒が非常に多く、定期考査における同問題の正答率は、57.6%であった。難解な憲法用語や法律名、馴染みのない中央で行われている政治についての学習のイメージからか、特に公民的分野の学習は難しいという先入観を持っている生徒も多い。そこで、「民主主義の学校」ともよばれる地方自治の学習で、吉富町のまちづくりのアイデアを提言するという活動を通して、資料を読み取ったり考えをまとめたりする場面を積極的に設定していきたい。また、身近な地域のしくみや課題を理解し、どう解決していくかを探っていくことで、政治が自分たちの生活に根ざした身近なものであることを実感させたい。

【このような内容を】

本単元は、学習指導要領「(2) 民主政治と政治参加」を受けて設定されている。地方自治体の政治の仕組みについて理解させるとともに住民の権利や義務と関連させて、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識を育てることをねらいとしている。

本単元の吉富町のまちづくりのアイデアを提言するシートを作成する場面では、様々なテーマ（少子化、高齢化、人口減少、環境問題など）を各グループで分担して考えさせ、それを共有することで、吉富町のまちづくりについて多角的・多面的に捉えさせたい。協働的な学習を通して、自分の考えをまとめ、適切に表現させたい。また地域の一員として吉富町の発展のために積極的に関わっていこうとする態度を育てていきたい。

【このような指導で】

単元導入で、教科書を開かせずに「ミニふくおか」の写真資料を見せ、子どもたちが仮想のまちづくりに取り組んでいることに気付かせ、地方自治に対する親近感を持たせる。

二次では、地方自治体の仕事とそのしくみや住民が持つ権利とその意義について理解させる。三次では、地方財政の現状や抱えている課題について理解させ、財源の確保の重要性に気付かせる。四次では、地域社会の課題解決に向けての各地の取り組みの例を知らせて地域社会をより良くするための住民参加の重要性を理解させる。

五次では、吉富町の現状を各種の資料から読み取らせ、良いところと課題についてグループごとに考えさせ、六次では、それを基に吉富町のまちづくりのアイデアを提言シートにまとめさせる。七次では、グループごとにそれを発表して全体で共有し、実際に町に提言していくことで、中学生の視点からも地域社会に参画していく意識が重要であることを理解させたい。

【このような視点を意識して】

◎社会生活の様々なしくみや現代社会の課題について理解し、身近な生活や自分の将来と結び付けて考える

＜D キャリアプランニング能力＞

【このような生徒に】

＜単元の目標＞

知識及び技能	地方自治の基本的な考え方や地方自治体の政治のしくみ、住民の権利や義務について理解している。
思考力、判断力、表現力等	地方自治体が果たしている役割や地方財政のあり方について、多角的・多面的に考察、構想し、表現している。
学びに向かう力、人間性等	地方自治体で行われている吉富町の実際の政治と身近な暮らしとの関連や吉富町の政治に参加することの意義について、課題の解決を視野において、主体的に関わろうとしている。

3 単元計画（全6時間）

A…人間関係形成・社会形成能力 B…自己理解・自己管理能力 C…課題対応能力 D…キャリアプランニング能力

次	時	主な学習活動	指導上の留意点（○），評価規準と方法（◇）	視点
一	1	住民自らの意思と責任で地域の政治を行うことが地方自治であることを理解する。 地方自治のしくみについて、国政との比較を通して理解し、中央集権の歴史を振り返りながら、地方分権の意義について考える。	○ 教科書の写真資料や吉富町や豊前市の広報誌を提示することで、国政に対して身近な存在である地方自治に親近感を持たせる。 ○ 地方自治の意義や国政と地方自治の違いを問いながら、地域の実態に応じた判断が可能であるのが地方自治であることを考えさせる。 ◇ これまで学習してきた国政との比較を通じて、地方自治の意義について説明することができる。 【知識・技能】《ワークシート》	
二	1	地方自治体のしくみとその仕事内容について調べ、まとめる。 地方自治体における直接民主制と間接民主制のしくみについて考える。	○ 吉富町、豊前市の広報誌を使ってグループで調べさせ、自分たちが住んでいる地域の様々な行政の仕事やサービスの事例を挙げさせる。 ○ 地方議会の議場写真を提示して条例の制定が実際に議論される場であること、また、地方自治のしくみの図を提示して、国政と比較させ、類似点と相違点を出させる。 ○ 国政との大きな相違点である直接請求権について、新潟県巻町の原発を巡る住民投票から考えさせる。 ◇ 地方自治体における直接民主制と間接民主制について、「住民の権利」という言葉を使って説明することができる。【思考・判断・表現】《ワークシート》	
三	1	地方自治体の財源の種類について知り、財源確保の重要性について話し合う。 地方財政の現状と課題を知り、将来の地域社会のあり方とそこで果たす地方財政の役割について考える。	○ 教科書の資料を使って、地方自治体の歳入を調べ、特徴をまとめさせる。 ○ 都市部と地方の歳入の割合の違いを捉えさせ、また近年の地方債の発行状況を提示することを通して、地方財政の現状と課題を考えさせる。 ◇ 少子高齢化の社会の中で、これからの地方財政は何の割合が増えていくのか予想することができる。 【思考・判断・表現】《ワークシート》	
四	1	地域社会を取り巻く課題について知る。 課題解決に向けたこれまでの取組について調べ、これからの地域社会のあり方について考える。	○ 前時の学習から財源の確保や少子高齢化などの課題を想起させる。 ○ 市町村合併の目的を「効率」という見方で考えさせ、そのデメリットを「公正」という見方で考えさせる。 ○ 住民と行政の協働がこれからの地方自治を考えていく上で欠かせないことを理解させ、次時につなげる。 ◇ 対立と合意、個人の尊重と民主主義に着目して、外国人の住民との共生のためにどのような取り組みを行っていけばよいか説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】《ワークシート》	D
五	1	「広報よしとみ」やウェブサイトから各種の統計データを読んで、吉富町の現状を知る。 吉富町のよいところと抱えている課題は何かを考える。	○ 8つのグループに分け、それぞれにテーマを与えて、それぞれの吉富町における現状を捉えさせる。 ○ 現状を知る中で、これまでの学習から我が国の地方自治体全般に関わる課題を出させると共に資料や統計資料を分析させていくことで、吉富町独自のよいところと課題が見えてくるようにする。 ◇ 吉富町のよいところと抱えている課題についてグループで話し合ったことをもとにKJ法で模造紙に整理することができる。 【思考・判断・表現】《模造紙》	C D
五	1 （本時）	前時で各グループが考えた吉富町のよいところと課題を全体で共有する。 各グループで、まちづくりのアイデア提言シートを作成する。 ① 課題の全体共有 ② グループでの話し合いと提言シート作成 ③ 振り返り	○ 前時で各グループが整理したよいところと課題を電子黒板に提示する。 ○ 提言シートを作成する際、効率・公正の観点から考えるかどうなのか、実現可能なものになっているかどうかという2つの視点を提示する。 ◇ 吉富町のまちづくりについて提言する活動をもとに、これからの地域社会の発展に向け、自分にできることを考察し表現している。 【思考・判断・表現】《提言シート》	D

五	1	<p>前時でつくった吉富町のまちづくり提言シートをグループごとに発表し、全体で共有する。</p> <p>まちづくり提言シートの作成を通じて、地方自治体と身近な暮らしとの関連や地域の政治に参加することの意義について考えることができたことを確認する。</p>	<p>○ 実際の吉富町の総合計画後期基本計画を提示して、自分たちが考えた提言シートと比較して、共通点と相違点を明らかにさせる。</p> <p>○ 私たちの意思を地方の政治に反映させることが必要であり、主権者であるという自覚を深めるように促すことで、本単元のまとめとする。</p> <p>○ 提言シートは、吉富町の未来町づくり課の担当職員に実際に提案し、地域の政治に参画した実感を生徒に持たせたい。</p> <p>◇ 他のグループの提言シートの内容を聞き、吉富町の実際の計画を知ることによって、これからの地域社会の発展に向け、自分にできることを考えることができる。【思考・判断・表現】《ワークシート》</p>	D
---	---	---	---	---

4 本時 令和3年11月18日(木) 13:50~14:40 於: 3年3組教室

(1) 主眼

吉富町のまちづくりのアイデアを提言する活動を通して、地域社会の課題について、身近な生活と結び付けながら、吉富町のために自分ができることを提言シートに記述することができるようにする。

(2) 本時で意識するキャリア教育の視点

意識する能力	意識する視点の具体
D キャリアプランニング能力	<p>○ 吉富町のよいところや課題から、目指す町の姿を見つけ出すことができる。</p> <p>○ 提言シート作成にあたって、課題の解決に向けて社会の一員として積極的に自分にできることを考えることができる。</p>

(3) 準備

教科書、ワークシート、電子黒板、話し合いの視点の提示資料、模造紙、赤・黄色・青・緑の付箋

(4) 展開

過程	学習活動・内容	指導上の留意点(○)と評価規準(◇) 意識するキャリア教育の視点(◀▶)と手だて(◎)
導入	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>各グループが考えたそれぞれの視点からの吉富町のよいところ、課題を知る。</p>	<p>○ 前時で考えた各グループがよいところ(青の付箋)、課題(黄色の付箋)を整理した模造紙を電子黒板で提示し、全体で共有させる。</p>
展開	<p>吉富町のよいところ、課題をもとにまちづくりのアイデアを考え、提言シートをつくらう</p>	
	<p>2 各グループのテーマに基づいて、吉富町のよいところを伸ばし、課題を改善する視点から、目指す町の姿を2つから3つ見つけ出す。</p> <p>各グループのテーマ 少子化と子育て支援、高齢化と介護・福祉、人口減少、財源の確保、環境問題、産業の活性化、教育と国際交流、観光業</p>	<p>◎ 目指す町の姿をイメージしやすくするために「目指せ○○なまち」というタイトルをつけるように指示する。</p>

展開

- 3 目指す町の姿から考えられるまちづくりの具体的な取組のアイデアを考える。
- 4 グループで交流し、提言シートを作成する。
- (1) グループで交流する。
- 〈グループ交流の視点〉
- ・効率・公正の観点から考えるとどうなのか。
 - ・実現可能なものになっているか。
- (2) 提言シートを作成する。
- ・提言シート (まとめ)

- ◎ まちづくりの具体的な取組をまず個人で、身近な生活の中から考えさせるために赤の付箋に「私たちができること」を書かせる。その後、緑の付箋に「町への提言」を書くように指示する。
- アイデアの内容を一人一人がグループの中で説明しながら模造紙に貼り付け、内容の似たものを集めて整理し、提言シートを作成させる。
- ◇ 吉富町の課題について身近な生活と結び付けながら、自分ができることを提言シートに記述することができている。
- 【思考・判断・表現】《提言シート》
- 〈D キャリアプランニング能力〉
- 早くできあがったグループがあれば、発表させる。

「目指せ、クリーンな町」

私たちにできること	町への提言
道にゴミを捨てない。地域のゴミを拾う	参加できるクリーン活動を増やす
川や海をきれいにする行事に参加する。	企業を誘致し、若い人が働く場を増やす
ペットボトルを集める	家で油などを流さないように呼びかける
名物や行事について説明できるようになる家で	カミンくんグッズを考える

終末

- 5 本時の学習を確認し、振り返る。
- (1) 本時のまとめとして、吉富町の未来町づくり課の担当職員 A さんに講評と助言をお願いする。
- (2) 振り返りを記述する。
- 〈振り返り例〉
- ・□□さんのお話を聞いて、自分たちが考えたことは、間違っていないのだなと実感できた。
 - ・吉富町がこうなってほしいということを実際の生活を思い浮かべながら、考えることができた。

- 本時の授業を振り返らせるために、めあてを全員で確認させる。(課題の解決に向けて社会の一員として積極的に自分のできることを考えることができたかどうかを確認させる。)
- A さんの講評と助言を聞いて、次時の発表の際、留意すべきことを考えさせる。